之　思召ヲ以毎年金四千五百圓宛下
賜候事

但本年之儀ハ當十月ヨリ月割ヲ以下賜候事

明治六年十月十二日

明治六年癸酉十月廿三日　朝鮮事件ニ付
奏狀口演　勅語并親臨　勅語等左ニ

臣具視謹テ
天皇陛下ニ白ス抑各國締交ノ始メ幕
政衰弛ノ時ニ際シ條約對等ノ例ヲ得
ス國權ヲ奪ハレ國威ヲ失スルヲ以テ
人心乖戾シ國政整ハズ或ハ金甌一缺
アラン丁ヲ恐ル是以海内一致同心協
力國權ヲ復シ國基ヲ固クシ保安ノ道
ヲ盡サントス此レ

先帝ノ遺旨ニシテ　陛下モ亦神明ニ
誓ヒ期シ王フ所ノ　聖旨ナリ故ニ大
政維新ノ初メヨリ忠藩義國ノ士及艸
莽ノ輩ニ至ルマテ國事ニ死スルモノ
其數幾千ナルヲ知ラス竟ニ今日ノ鴻
業ヲ致スヲ得タリ夫レ身命ヲ抛チ國
事ニ殉フルモノ皆　聖旨ヲ奉體スル
誠意ニ出テサルナシ而メ干戈既ニ戢
リ名分既ニ正ク條理彌明ニ各藩封土
人民ヲ奉還シ全國始テ一致ノ治體ニ
歸シ尋テ廢藩置縣ニ至リ大綱是レ立
大權是擧リ郡縣ノ治全ク成ル於是乎
國權ヲ復シ萬國並立ノ基礎ヲ立ントト
スルノ　聖旨ニ從事セサルヘカラス
乃チ辛未ノ冬臣　陛下ノ目的期望ス
ル旨趣ヲ以テ特命ヲ奉シ歐米各國ニ
使シ各國帝王及ヒ政府ノ考案ヲ諮詢
シ臣カ目擊親察スル所トヲ參酌シ條
約改正等ノ議ニ及ハントス抑此擧タ
ルヤ國權ノ復スルト復セサルト
聖旨ノ達スルト達セサルトニ關係シ
至重至難ナルハ固ヨリ言ヲ俟タス然
ルニ臣其實地ニ就キ其形勢ヲ察スル
ニ其改正ヲ議スルノ難キ更ニ意料ノ

外ニ出テ功ヲ一朝タニ奏スヘキニ非
ス實效實力ヲ著スニ至ラスンハ竟ニ
國權ヲ復スル亦難シ國權ヲ復セスン
ハ　聖旨ニ報スル能ハス此レ實ニ臣カ
焦心苦慮眠食ヲ安セサル所ナリ夫レ
實效實力ヲ著スヘ勉テ政理ヲ整ヘ民力
ヲシテ厚キニ至ラシムルニ在ルノミ
而シテ其ノ之ヲ為スヘ容易ノ事ニ非
ス故ニ臣歸朝復命ノ始伏テ望ム
陛下能ク聖慮ヲ此ニ留メ成功ヲ永遠
ニ期シ驟進速成ヲ求ムルナク大ニ之
カ目的ヲ定メ不動不撓政治是レ理シ
民力是厚カラシメ以テ其實效ヲ立テ
以テ其實力ヲ用ヒ以テ國權ヲ復セン
ヿヲ然ルニ今臣奉使ノ復命未タ其委
曲ヲ盡スニ暇アラズシテ内閣遣朝鮮
使ノ議アルニ會スヿ臣竊ニ之ヲ考フル
ニ維新以來纔ニ四五年ノミ國基堅ト
スルニ非ザルナリ政理整トスルニ非
ルナリ治具備ルニ似タリト雖モ警虞
難測今ノ時ニ方テ未タ輕ク外事ヲ圖
ルヘカラザルナリ雖然朝鮮國我ト隣
好ヲ修スル茲ニ數百年彼レ非禮ヲ我
ニ加フレバ我安ソ受テ而止ムベケン

且遣使ノ議已ニ略ホ定ル臣亦之ヲ然リトス然レモ之ヲ發遣スルニ至テハ之カ緩急順序ヲ審ニセズンハアルヘカラス何ントナレハ彼レ昧頑固結若シ禮ヲ我レノ朝使ニ加ヘザレハ我乃之ニ應スルノ處置ナカル可ラズ我之ニ應スルノ處置ナクンハ是我カ國權ヲ損スルナリ而シテ彼已ニ端緒ヲ顯ス故ニ使ヲ發スルノ日乃戰ヲ決スルノ日ナリ是即軍國ノ大事宜ク熟ク慮リ深ク謀ラスンハアルヘカラス且今萬國從衡ノ勢ヲ察スルニ東ニ形シテ而其情西ニアルモノアリ或ハ其端ヲ示サスシテ而遠圖ヲナスモノアリ故ニ表面ヲ以テ其真情ヲ測ルニ不足今ヤ樺太ノ事頻ニ起ル是乃目前ノ急亦甚注意セスンハアル可ラス凡是等ノ事先其情ヲ審ニシテ而シテ朝鮮連與ノ意ヲ絶タシメ萬全ヲ保ツヲナシテ而之カ目的ヲ定メ之カ方略廟算ヲ明ニシ其他航艦ノ設兵食ノ具錢貨ノ備及内政百般ノ調理ホニ至ル迫預メ其順序目的ヲ定メ而ル後朝使ヲ發遣ス未タ晩トセザルナクリ若シ之カ備ヲナサ

又今頃ニ一使節ヲ發シ若シ萬一ノ事
アリテ後事不繼而メ更ニ他ノ患害ニ
カヽルアラハ雖悔不可追ナリ故ニ之
カ備ヲナサス今頃ニ使節ヲ發スルハ
臣其不可ヲ信ス而萬不得已ノ義アル
モ戰ニ從事スルガ如ニ至テハ基ヲ堅
シ備ヲナスニ非レハ臣實ニ其不可ヲ
知ル其議ノ顛末ハ之ヲ口陳上奏ス伏
冀クハ陛下事ノ本末勢ノ緩急ヲ深
察シ聖斷アラン事ヲ臣具視不勝激切
屍營ノ至昧死上言誠惶頓首

口演

辛未ノ冬特命全權大使ノ命ヲ辱シ使
ヲ歐米各國ニ奉シ今般帰朝復命スル
ヲ得タリ抑使ノ事實ニ國家重大ノ
事件ニ係ルヲ以テ焦心苦慮勉テ
聖旨ノ貫徹セン事ヲ期シ歐米各國ヲ
歷聘シ其帝王ニ謁シ聖旨ヲ口陳シ
其大臣ニ接シ我政府ノ期望スル所ヲ
論辨シ條約改正ノ目的ヲ謀ルニ之ヲ
改正スル事一大至難ノ業ニシテ理論
口舌ノ能ク致ス所ニ非ス到底實效實
力ニ非レハ我期望スル所ヲ達スル能